

桜蔭俳話会 五月句会 (第三六五回)

平成三十年五月二十六日(土)

山下公園で吟行。

句会場は、横浜市開港記念会館会議室

- 4点 目の端に消えて確かに青蜥蜴 守
- 3点②海風のふいの抱擁麦わら帽 才美
- 3点①競漕や「沈」と絶句のアナウンス 守
- 2点①インド水塔見上げて喉の暑さかな 明美
- 2点 照り返す米利堅波止場の夏の潮 明美
- 2点 青嵐古りしホテルの昼あかり 才美
- 2点 薔薇の香やキッズダンスの舞台まで 友子
- 2点 初夏のほど良き歩幅風の街 守
- 2点 ばら一花その名は問はず香りけり 守
- 2点 風あびて冷し珈琲一気飲み 邦子
- 1点①薔薇の美と真摯な対峙カメラマン ヤエ子
- 1点①のぞかるるまだ濡れてゐる薔薇の画布 才美
- 1点①海風と太鼓の音や風光る 幸
- 1点 噴水の眩し伏し目の女神像 友子
- 1点 吟行の薄暑愉しき横浜路 邦子
- 1点 夏帽を嫌ふ駄々つ子沖の雲 友子
- 1点 幼らのダンス軽やか青葉風 ヤエ子
- 1点 夏木立ボートレースの声揃ふ ヤエ子
- 1点 異国語が飛び交ふ園に薔薇が咲く 眞壽
- 1点 薔薇の門くぐり返してから帰る 才美
- 1点 幹長き鉄輪の支え薔薇香る ヤエ子

※

- 青葉風引き締めらるる舳ひ網 才美
- 薔薇百花眼下に警備艇速し 才美
- 潮風に揺られてばらの一花散る 明美
- しぶき浴ぶ水の守護神雲の峰 明美
- 文化財黒文字大き氷川丸 幸
- 不揃いのダンス踊るや夏来る 眞壽
- ばら開ける沈床花壇の小径かな 明美
- 新緑の公園囲むビルの群れ 眞壽
- 犬と子の芝生コロコロ薄暑光 友子
- 黄雀風歴史を刻みて氷川丸 幸
- 夏潮に焦土の記憶赤レンガ 才美
- 時過ぎし薔薇への感謝蜂の来る ヤエ子

夏日纏ひし「やくそく」の少女像 明美
 夏のチョウ遠慮しながらバラを嗅ぐ 直子
 薔薇の花カルメンの影宙に浮く 幸
 白スニーカーの少年浜を走り来る 友子

香水や黙もだの深まる資料館 守

咲き満てるバラのパズルや誰も解けぬ 才美

山ゆりに見送られてた吟行す 直子

風ゆるみ光ゆるみて夏浅し 邦子

水母傘ひらくまで待つ知らぬ子と 才美

国旗の穂燕の二羽や夏の海 幸

一人待つ和服の女や更衣 眞壽

若者の胴着ずらりと夏の海 邦子

マリントワーバラ咲き誇る新緑眩し 直子

写真撮る未来バラ園外人等 直子

黒光りするブルドックにも夏来る 眞壽

県庁にギンナン青し夏帽子 直子

プラタナス街もすがしき更衣 邦子

(欠席投句 古野明美、恩田才美)

「事務局からお知らせ」

○六月句会

六月三十日(土)、旭区民文化センター(サンハート)でおこないます。兼題は、「青葉」です。

○七月句会

七月二十九日(日)旭区民文化センター(サンハート)で行います。

○八月は、句会は休みです。